



報道で紹介された美瑛高校 12

◆令和5年9月22日(R5. 9. 30 びえい新聞)

オープンスクールが行われ、多くの中学生や保護者が来校されました。本校の雰囲気を感じていただき、好評のうちに終了しました。

来年の4月皆さんに会えることを楽しみにしています！！

授業見学や体験授業などで美瑛高の雰囲気を体感
美瑛高校オープンスクールで特長をアピール



美瑛高校の雰囲気を感じ、高校進学を予定している中学3年生と保護者を対象にカリキュラムや支援制度などを紹介する、美瑛高校のオープンスクールが9月22日に開かれた。当日は30人ほどの中学生と保護者が参加。美瑛高校の説明に耳を傾け、授業見学などを行った。

参加した生徒や保護者を前に、谷尊仁校長は「志あれば必ず成る」の校訓を始めスクールミッションやスクールポリシーを紹介しながら「美瑛高校は創立75年を迎えている伝統ある学校。人数は少ないけれども、一人ひとりを丁寧に見ていくことができる。寄り添いながら目標に向かい進む力をつけていくことができる学校。今日

は学校の雰囲気を感じてもらいたい、美瑛で学びたいと思ってもらえれば幸甚。来年4月に顔を合わせることができると願っている」とあいさつ。「全員取りこぼしなく大人になってもらいたい」というカリキュラムを組んでいるという教育課程、「就職に強い学校。きめ細かな進路指導で、就職試験はほぼ落ちない」などの進路状況、「町からの手厚い補助がある。がんばる生徒にはお得な制度も用意」といった就学支援制度がそれぞれ説明された。

また、生徒会の十河楓会長が生徒代表メッセージとして「人数が少ないのは魅力のひとつ。学校生活の中で自信を持てるようになった。高校は自分が大きく変われるチャンス。満足のいく高校を選んでほしい、それが美瑛であることを願います」と思いを伝えた。

続いて保護者と生徒のグループに分かれ、それぞれ校舎内を見学。各学年の授業の様子なども見て回った。さらに中学生の体験授業も用意され、英語・国語・理科から1教科を選択し、保護者が見守る中でそれぞれの教室で授業を体験。各担任による探求型の特長ある授業を実感し、この日のスケジュールを終えた。

また、希望者には部活動の見学として、弓道部が体育館で練習の様子を披露。見学を希望した生徒に部員たちが弓の弾き方などを手ほどきした。当日は、美瑛中学校からの参加もあったものの、ほとんどの生徒が旭川などの町外。谷校長は「できれば美瑛町内からの進学が増えてくれたらと思うところではある」と話した。来年の入学状況は、美瑛高校の存続に大きく影響を与える



だけに、特に町内からの入学者増に向けた有効な対策が必要とされている。